

地元のために尽くしたい—— その揺るぎない志が大分県を明るく照らす

CAAC 株式会社 シーエイシー
Challenge And Create

大分県大分市城崎町 1-3-31

URL : <http://www.oitacac.co.jp>

1985年に設立された『シーエイシー』。東京に本社を構える『東京ソフトウェア』を親会社として、立ち上げられた企業だ。約30年前、どのような志から同社が設立され、今日に至るまで長い歴史が紡がれてきたのだろうか——。同社設立時の発起人の一人である相談役の田中氏と、現社長の前田氏にお話を伺った。



先代
高橋 光弘



会長
高橋 敏明

大分県における同級生たちが 地元のために会社を設立する

——『シーエイシー』さんをご創業されたのは、いつですか。

(田) 1985年です。東京に本社を構える『東京ソフトウェア(株)』を親会社として設立されました。当時、大分県は他県に先駆けて「ソフトウェア産業の振興」政策を提唱・推進しており、それに応じることかたちで立ち上げられたのです。

——大分県で設立されたのには、何かご縁があったから？

(田) 実は、この会社は大分県出身の同級生7名を発起人として立ち上げられた会社で、私もその一人なのです。その中で、「先代」と呼ばれる高橋光弘氏がキー

パーソン。『早稲田大学』の理工学部を出た後、『防衛庁(現・防衛省)』に勤務し、それから『東京ソフトウェア』を立ち上げて、情報関係の事業をしていました。その後、中学時代の先輩で、当時大分県知事だった平松氏から「企業誘致につながることをしてくれないか」と打診され、東京と大分にいた同級生たちに声を掛けて大分県に『シーエイシー』を立ち上げたのです。

——なるほど。それで大分県に。

彼は非常に郷土愛が強く、大分県のために尽くしたいと思っていました。他の同級生たちも彼と同じ気持ちでしたので、同社立ち上げに至ったわけなんです。

——その当時、特に大分県においては最先端だったでしょう。

「[地域のために尽くしたい]——その強い思いこそが、御社が30年という長い歴史を紡いでくる上で何よりの原動力となったことは、お二人のお話からひしひしと伝わってきました。そうした地元に対する思いが社員の皆さんのみならず、より多くの人たちに伝播していくことで、大分県がより一層元気になっていくことを期待しています！」

大鳴戸親方

ソフトウェアと言えば、都市部でも今のように広く社会に普及していたわけではない時代ですから、大分県でこうした会社が立ち上げられたということで、新聞などにも取り上げられましたね。

——田中相談役は、設立以後『シーエイシー』さんとどのように関わってこられたのですか。

(田) 私はもともと、地元の新聞社に勤務する傍ら、当社の取締役を務めていました。『シーエイシー』では設立後、同級生の一人が社長を務めていましたが、体調を崩したため、先代が『東京ソフトウェア』と両方の社長を兼務していました。私が新聞社を退職した時に頼まれて、社長となりました。

——前田社長はいつから、どういった経緯で現職に？

(前) 現職に就任したのは、昨年なんです。田中社長の後に、先代のご子息である高橋敏明現会長が社長を務めておられ、それから私が受け継ぎました。私は大分県出身ですが、それまでは東京に単身赴任していたのです。勤めていたのが『シーエイシー』の主要取引先である『新日鉄住金ソリューションズ』で、主にシ



取締役相談役

田中 康生



代表取締役社長

前田 修二



ステム開発を手掛けていました。60歳に近づくにつれて、帰郷して地元を基盤に仕事がしたいと思っていた矢先に、社長就任のお誘いがあったので受けることにしたのです。以前から、『シーエイシー』とは付き合いがあって知り合いもいましたので、抵抗はありませんでした。

地域の信頼関係を堅守しながら 新たなカラーを打ち出す

—改めて、現在の事業内容についてお聞かせ願えますか。

(前) 『新日鉄住金ソリューションズ』からの受注を主体に、製鉄所関連のシステム開発などを手掛けています。また、介護・医療分野における管理ソフトの開発にも手を広げてきました。2000年の介護保険制度のスタート時からお付き合いいただいているお客様もいらっしゃり、長く信用を寄せていただいていることをありがたく思っています。

—高齢社会という今の時代だからこそ、地元の介護・医療業界に対する貢献度は非常に高いと思います。

(田) 地元での活動のみならず、親会社

が東京にあるので、受注量が落ち着く時期には東京へ応援に出向くなど、相互に連携を図れる体制が確立されています。——ところで、社長にとって相談役はどのような存在ですか。

(前) 相談役は新聞社に勤務していたキャリアがあり、『大分大学』経済学部OB会トップでもあるので、人脈がすごいです。逆に私は相談役に比べると、大分県における人脈があまりなくて、そうしたところについて教わり、学ばせていただいているところです。

—最後に、今後に向けてのビジョンをお願いします。

(前) これまで通り、お客様との信頼関係を堅実に守っていくと同時に、当社ならではの新たなカラーも少しずつ打ち出していければと考えています。これまで事業の柱としてきた製鉄所・介護関連に加えて、『シーエイシー』は〇〇が得意だから、是非お願いしよう」と言っただけのような強みを生み出していくことで、新たな一歩を踏み出したいと思っています。

—本日はありがとうございます。

(取材／2016年6月)

Column

1985年に設立された『シーエイシー』。もとを辿れば、創業者である高橋先代を筆頭に、郷土愛に溢れた7名の発起人によって立ち上げられた。「地元・大分のために尽くしたい」——その一途な気持ちが同社を生み出したのだ。そして30年経った今もなお、郷土愛が同社における堅牢な経営基盤となっている。Uターン希望者や地元出身者を中心とする採用活動、60歳を過ぎても長く勤められる雇用システム……地域の人たちを温かく迎え入れる社風こそが、『シーエイシー』の何よりの特長となっているのだ。対談中、田中相談役は「田舎には田舎なりの企業の在り方があり、存在価値がある」と語った。同社で脈々と受け継がれてきた郷土愛をベースとした経営は、今後も末永く受け継がれ、大分県に多大な貢献を果たしていくことだろう。